

# つくば立原会見学会報告

神奈川大学 島崎和司

日時 平成 13 年 10 月 19 日 (金) 15:00~17:00

見学場所

横浜国際旅客ターミナル新築工事 横浜市中区海岸通 1-1 大棧橋埠頭内  
横浜税関本館増築工事現場 横浜市中区海岸通 1-1

平成 13 年度つくば立原会見学会は、戸田建設(株)のご好意により、上記のように実施されました。当日は天気もよく、国土技術政策総合研究所の上之園建築災害対策研究官を初めとして 10 数名の参加がありました。私も、今回は横浜ということもあり、始めて参加させていただきました。短い時間で 2ヶ所の見学という過密スケジュールでしたが、特殊な工事を見学できたことは貴重な体験となりました。この場を借りまして関係各位にお礼申し上げます。

横浜国際旅客ターミナル新築工事は、台形状断面のアーチ状梁(写真 1)と、折り紙のように鉄板を組合せた床及び屋根から成る構造(写真 2)で、21 世紀のクルーズ需要に対応し、山下・関内地区の活性化などを目的として建設されるものです。構造は、基礎 RC 造、地上 S 造で地上 2 階、地下 1 階からなり、建築面積約 5,800 m<sup>2</sup>です。屋根面は緩い 2 方向の曲面からなるデザインで、上下の動線はすべてスロープ(写真 3)となっています。工事は 2002 年 11 月完成予定で、現在 3 工区に分れて工事が進められており、戸田 JV の現場は最先端部になります。

見学させて頂いた日は、台形状断面のアーチ状梁のジャッキダウンが終了し(写真 4)、ちょうどウイング部分の鉄骨梁の最後のピース(写真 5)が組みあがった上棟の日でもありました。

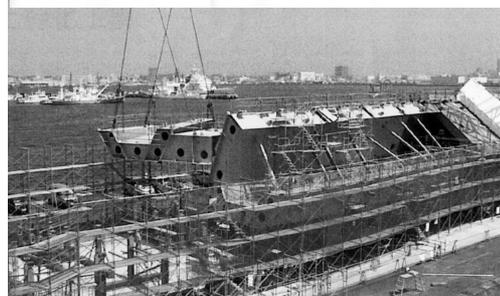
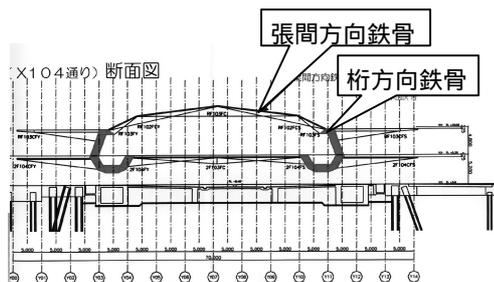


写真 1 台形状断面のアーチ状梁



写真 2 折板床及び屋根



写真 3 入り口側のスロープ



写真4 アーチ状梁のジャッキダウン



写真5 上棟

躯体は土木で、中に建築が入っているような感じの工事でしたが、海の上の大スパン鋼構造物ということで、耐久性や、変形追随等のディテールの施工に苦労されているようでした。

横浜税関本館増築工事は1934年に戸田組によって建設されたSRC造・地上5階の既存建物(写真6)を保存活用する一方、一部を取壊し、S造・地上7階の建物(延べ面積約7,100㎡)を増築する工事です。建物には塔(クイーンズタワーと呼ばれる)が建っており、この耐震補強・補修工事とその反対側にS造の増築(写真7)を行なうものです。

工事はまだ始まったばかりですが、既存建物の内装や装飾の補修と保存(写真8)、増築部分以外の外観意匠の保存のため、意匠形式の建築史的検討と補修部品の確保、既存躯体の保有性能の検討、既存躯体と増築躯体の構造形式、基礎構造の違いによる取り合いなど、新築工事とは違った難しさを感じさせる工事でした。今後、工事が進んだ段階でまた見学にいらしてくださいとの所長のお言葉で見学会は終了しました。

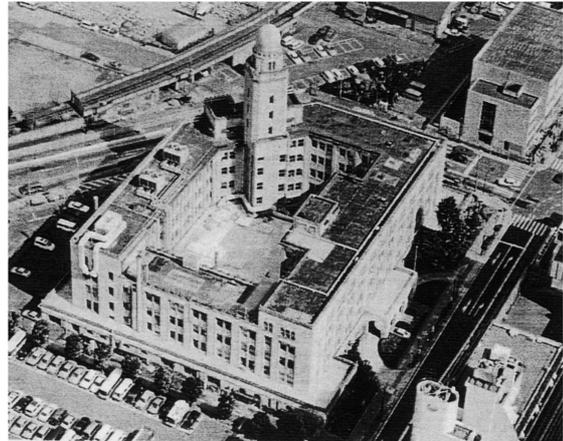


写真6 全景



写真7 S造による増築部分



写真8 室内の様子